令和8年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立谷戸第二小学校

●全国学力学習状況調査（小学校第6学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうか。【ふしぎ】	34	・話や文章の種類とその特徴について、理解することができている。 ・ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。 ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。	全国平均や都平均と比べ、全体的に平均がとれている。漢字を文の中で正しく使う問題、情報と情報との関係についての理解は正答率が低い。漢字については、書き取りの反復練習を継続的に行うと共に、文章の中で使いこなせるようにする指導の工夫が必要である。また、文章から必要な情報を読み取ったり、その情報と情報との関連について考えたりすることに課題が見られるため、継続した読書指導、そこから感じたことを書く「読書貯金」の蓄積、適切な情報の活用の仕方を学ぶことにも取り組む必要がある。
	考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができる。	46		
	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。	48		
	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。	63		
算数・数学	四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料に違いがあるかを調べるために、直方体イの送料の求め方とその答えを書く。	50	・数と計算において、概ね正しく計算することができている。 ・図形領域において、平面図形の理解ができている。 ・小数の概念的理解ができている。	全国平均よりやや高め、都平均とほぼ同程度の正答率となった。各問題において、正答率80%越の問題が1つしかないことを考えると、計算技能をはじめとした基礎的な知識の定着もまだ完全とは言えない。特に文章になっている問題の正答率が低く、題意を捉えられていないのが課題としてある。加えて、単位量のあたりの大きさを考える問題や表の読み取りに関する問題の正答率が低いことから変化と関係の領域において反復練習が必要であると感じた。授業外の補完的な時間でミライシードや習熟用プリントを活用して弱点課題の克服を図っていく。
	ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について。正しいものを選ぶ。	45.1		
	7/3と7/4のどちらが大きいかを判断し、そのわけをかく。	46.3		
	二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数をかく。	23.2		